

新会長に  
聴く

藤澤 鐵雄氏

(関東コイルセンター工業会  
会長) 藤澤 鋼板(社長)

加工賃是正

—新会長としての課題や抱負をお聞かせ下さい。

先人たちが作り上げたものを守り、コイルセンター業界が抱える問題に対して、会員の皆さんと共に真摯に取り組んでいきたい。まず大切にしたいことは『健康と安全』だ。業界は今大変厳しい環境下にあるが

何をすることも、この健康と安全が大前提となる。当会では全国コイルセンター工業組合と連携し懇談会や経済産業省とのヒアリング、見学会、設備保全に関する研修会など様々なことを行っている

が労災問題に関しても情報を共有化することに努め、対策を講じ、会員

企業の現場における災害防止に徹底して取り組む。事業をしっかりと行っていくためには経営者はもちろん社員の健康と安全を第一に考えなくてはならない。次にくるのはやはり加工賃の是正という業界の永遠の課題にどう取り組んでいくかということだ。業界を巡る環境は、海外情勢から需要業界におけるものまで様々な要素が絡んでおり、会員企業が業績をV字回復できる局面にたどり着けそうにはない。そうした中で



これは大変なことだ。例えば、藤澤鋼板としての話だが、村山鋼材さんとは協業を行い、双方にとつての設備効率活用化を実現している。そう

我々はメーカーの材料値上げ実施に直面しており、非常に厳しいと言わざるを得ない。値上げに関しては仕方がない。だが我々がユーザーから要求されるのは更なるコストダウンという事態に陥っている。こうした環境下で加工賃是正という問題はよりシリアスなものになってきている。

—加工賃是正に関しては、昨年年初から業界内で動きがありました。自社の加工賃是正について複数の

業界の存在意義しつかりと

4者が「WIN×4」の関係に

企業がアドバランを上げた。各社それぞれ取引先との間で交渉してきたかと思うが、そうした取り組みを進めるにしても環境はますます厳しくなってきた。経営に関する問題はそれぞれの企業で解決しなければならぬが、この加工賃に関するものは各社共通の悩みだ。当会として、会員企業の取り組みを促進するために、現状に関する情報を正確に発信し、サポートしていきたい。イメージとしてこれまで取り組んできたものを、もう一歩先に進めることが出来たら良いと考えている。

—加工賃は相手先がある問題で、中間工程を担うコイルセンターとしては、どうしても厳しい立場に立たされてしまいますよね。

個人的に思うのは、商社の方々の

いう企業枠を超えた連携に知恵を絞っていかないと負担は大きなものになってしまいます。藤澤鋼板は今年66期を迎えた。ここにくるまでに随分と

理解と協力が不可欠であるという点だ。メーカーとユーザーを側と側に出側例えると分かりやすい。商社とコイルセンターはこの間にいる。どうしても入と出の力に負けてしまい、厳しいところで商社とコイルセンターが分け合うことになる。我々はユーザーの高い品質要求や厳しい納期管理に比べ、非常に責任の重い仕事を任されていると思っている。

仕事を受けるにはそれなりの適正な加工賃を頂戴しなければならぬ。その辺りのことを、もっとメーカーやユーザーに対して訴えていかなければいけないと思っている。当会では役員15人のうち、9社は商社の事業会社が占めている。こうした条件下において、商社とコイルセンターの協力なくしては歩を進めることは出来ない。メーカー、ユーザー、商社、コイルセンター

それぞれがWIN×4の形になることが理想的だと考えている。富の配分が余りにも偏重的であると、モノ作りの世界が根底から崩れてしまう。コイルセンターのアイデンティティ、存在意義をよりしつかりと確立していかなければならないと感じている。もう業界の皆さんは、私の性格はご存知でしょうけど(笑)、生意気と言われるかもしれないが、伏え続けていかなければならないと思っている。

—コイルセンターにとって設備更新も大変な負担になっていきますよね。

ユーザーの要求に応えるのが仕事であり、設備更新も含め投資はやって当たり前なのだ。御恐らく会員企業の皆さんも借入れは多い方だと思っ。今は利息がこういう状態なので、何とか助かってはいるが、設備更新もして人材確保にも注力しなければならぬ。(5面に続く)

社員に苦勞をかけてきた。会社として社員の努力や苦勞に報いることが出来るようなそうした業界にしていかなければいけない。(康)